

【授業科目】 産業看護学演習 I (産業保健基礎科学) Advanced Seminar of Occupational Health Nursing I

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
大谷喜美江、柴田 英治、後藤 由紀		1年次前期	選択	2	60	演習	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>産業活動と環境保全、労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方と適用方法について、学生のプレゼンテーションと討議を行う。また、その他の産業保健基礎科学について文献の抄読会を通して教員と議論することで学びを深める討議形式で展開する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/授業時間内のディスカッションをとおして全体で検討し、学生にコメントする。</p>						
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシーの④の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①産業保健・産業看護活動を展開するうえで基礎となるさまざまな知識を習得できる。</p> <p>②授業内容のテーマについて、文献・資料を収集し、プレゼンテーションできる。</p> <p>③文献等のクリティーク・集団討議によって、得た知識・技能を自己の活動に応用することができる。</p>						
時間外学習に必要な内容・時間	<p>授業で提示された書籍を参考に、担当するプレゼンテーション資料を作成する。(240分)</p> <p>授業で提示された参考書を事前に読んでおく(60分)</p> <p>授業の討議を振り返り、学びを深める。(30分)</p> <p>必要に応じて、関連学会や研修会に参加することで、さらに学びを深める。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>1～3. 産業活動と環境保全</p> <p>1) 環境破壊とその対策 2) 公害病</p> <p>3) 環境保全に関する文献クリティーク</p> <p>4～6. 労働の生理的負担</p> <p>1) 労働による生理機能の変化 2) 労働とエネルギー代謝 3) 静的労働と動的労働</p> <p>4) 労働と環境条件に関する文献クリティーク</p> <p>7～9. 労働の心理的負担</p> <p>1) 心理的負担の特徴 2) 労働者の心理的負担に関与する要因</p> <p>3) 心理的負担の調査方法</p> <p>4) 労働の心理的負担に関する文献クリティーク</p> <p>10～12. 産業疲労と人間工学</p> <p>1) 疲労の概念 2) 疲労の測定方法 3) 疲労防止対策</p> <p>4) 産業保健における人間工学的アプローチ 5) 人間工学からみた作業改善の進め方</p> <p>6) 産業疲労・人間工学に関する文献クリティーク</p> <p>13～15. 作業環境と健康影響</p> <p>1) 作業環境測定 2) 快適職場づくり 3) 物理的・化学的・生物学的要因と健康障害</p> <p>4) 作業環境と労働に関する文献クリティーク</p> <p>16～30. 上記以外の産業保健基礎科学に関する文献から産業保健について理解を広げる</p>					<p>柴田・大谷・後藤</p> <p>後藤・柴田・大谷</p> <p>大谷・後藤・柴田</p> <p>後藤・柴田・大谷</p> <p>柴田・大谷・後藤</p> <p>大谷・後藤・柴田</p>	
評価方法 評価基準	授業への参加態度 50%、 レポート・プレゼンテーションの総合評価 50%						
教科書	特に指定しない。		参考書等	広範囲にわたる参考書が必要なため、授業時に提示する。			